

今月初めの子どもの姿

●母親と離れる際は、泣くことなく保育者に抱かれて保育室内をじっと見つめている。 ●はいはい、つかまり立ちなどの移動運動が盛んになる。興味のある玩具に手を伸ばし、動かしたりして遊ぶ。

ねらい

●生活リズムを大切に、生理的欲求を満たすことで、心地よい生活を送る。 ●特定の保育者と関わりながら、触れ合い遊びを楽しみ、信頼関係を深める。

安全・健康

●毎朝子どもの健康観察を丁寧に、生活リズムを整える。また、心地よく過ごしやすい保育室の環境を整える。 ●乳児室内を清潔に保つだけでなく、子どもたちの手洗いの仕上げを丁寧に、感染症を予防する。

Table with 4 columns: 内容, 環境構成, 予想される子どもの姿, 保育者の援助. It details activities like mealtime, play, and sleep, and how staff supports children's needs and safety.

食育

●食品調査票を定期的に家庭に渡し、食べられるようになった食材を常に把握できるよう、家庭とこまめに連絡を取り合い、園と家庭とで離乳の進め方を一貫させる。 ●様々な食材や、形状に慣れるようにする。 ●スプーンや手づかみでの食事や感触に慣れるようにする。

職員との連携

●受け入れ時は、特定の保育者が受け入れをし、安心して過ごせるようにする。 ●個々の生活の仕方や癖を把握しておく。

●食事・睡眠・排泄など様々な場面において職員間での役割分担を決めておく。その場に応じて柔軟な対応ができるよう、どの職員でも全ての役割が担えるようにしておく。

家庭との連携

●園と家庭での生活が連続したものとなるように、家庭での様子を細かく聞き、また、保育園での様子も細かく伝え、子どもも保護者も安心して園生活を送ることができるようにする。 ●疲れが出やすい時期であることを話し、子どもの体調を注意して見てもらうように伝える。

評価・反省

●慣らし中は泣き声に保育者に抱かれていた子ども、少しずつ自我が芽生える自己主張が見られるようになった。その都度、優しく声を掛け気持ちを受け止めるようにした。 ●生活リズムでは、休みの明けに夜寝るの睡眠に慣れていた子どもが、大きくなりリズムが崩れる様子が見られた。個々のペースを大切にしながら関わりたいと思う。

Handwritten notes: <自己評価、取り組みの状況と保育者の振り返り> 園児の摂取状況を定期的にやり取りをし、栄養士と連携しながら離乳を進めていた。入園前にしっかりと栄養士に相談し、お母様も離乳がスムーズに進むと、離乳のサポートがスムーズに進むと思つた。離乳の形態がわかると、新しいものを食べることができるようになり、食欲がアップする様子が見られた。このため、スプーンを併せてお渡しし、その結果、積極的に指でつかむことができて、スプーンを持つ練習にも励む姿が見られた。